

## 協働事業提案制度事業 ふりかえりシート

事業の名称	「木もれびの森」案内看板及びマップ製作事業			
団体の名称	特定非営利活動法人 相模原こもれび			
事業担当課	水みどり環境課			
事業の概要	初めて「木もれびの森」を訪れる方が安心・安全に散策できるよう、案内看板や順路等案内板を設置し、紙ベースの「木もれびの森マップ」の作成、ホームページ上への掲載により容易に散策できる環境を整える。			
具体的な取組みの状況	<p>【平成30年度】</p> <p>1 案内看板現地調査及び団体内での打合せ 延べ12回 52名 32時間          (1) 既に森に設置されている看板の実態調査による問題点の把握と改善          (2) 看板に掲載する信号、バス停等の現況調査</p> <p>2 案内看板デザイン及び記載内容にかかる打合せ          (1) 団体・市の2者打合せ 延べ12回 78名 30時間          (2) 大学・市の2者打合せ 延べ3回 13名 5時間          (3) 団体・大学・市の3者打合せ 延べ6回 53名 12時間</p> <p>3 案内看板設置作業          基礎ブロック及び支柱設置、看板取り付け 延べ4回 36名 24時間          他のボランティアを含めた団体・市と協力して実施</p> <p>【令和元年度】</p> <p>1 順路等案内看板及び木もれびの森マップにかかる現地調査及び打合せ          (1) 木もれびの森踏査 延べ2回 12名 6時間          (2) デザイン、配置等に係る打合せ 延べ17回 105名 35時間</p> <p>2 支柱・順路等案内看板設置作業 延べ3回 22名 7時間</p>			
役割分担	<p>実施団体の主な役割</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・看板等デザインにかかる検討</li> <li>・看板設置箇所にかかる現地調査</li> <li>・看板設置作業</li> <li>・事業経費の負担</li> </ul> <p>市の主な役割</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学、他の保全団体及び地域等との調整</li> <li>・看板デザインにかかる検討</li> <li>・看板設置作業</li> <li>・事業経費の負担</li> </ul>			
事業効果	<p>市民ニーズに対応できた点</p> <p>女子美術大学の学生により世代を問わないデザインを検討していただいたことで、森を散策している利用者から、自分のいる場所が分かりやすく、親しみやすい明るい色みの看板及びマップであると評価を得ている。</p> <p>また、団体のホームページにおいても本事業の経過を含めた様々な情報を適時発信したことにより、ホームページ閲覧者数および団体新規加入者が増えた。</p> <p>行政の効率化につながった点</p> <p>木もれびの森の周辺にある公共施設やバス停等の公共交通機関を記載した看板や順路等案内看板を設置することで、利用者にとってわかりやすく散策しやすい森になった。</p> <p>看板やマップをきっかけに、森に親しむ機会が生まれることによって、保全活動及び生物多様性等への理解が深まるきっかけとなる。</p>			
事業終了後の方向性等	<p>昨年度で制度適用期間を終えた事業については、「現在の状況」</p> <p>今年度が制度適用期間最終年度の事業については、「来年度以降の方向性」をご記入ください。</p> <p>案内看板、順路等案内看板、マップによる相乗効果によって初めて訪れる方及び近隣住民の利用者についても木もれびの森を一層楽しめるきっかけになった。</p> <p>また、マップによって木もれびの森を知り、関心を持つ人が増えることによって、木もれびの森の普及活動及びその保全活動の新たな担い手の確保につながった。</p>			
3年間の総事業費と年度ごと内訳	2,520,000 円	平成30年度	令和元年度	年度
		1,451,000円	1,069,000円	円
上記のうち市負担金	2,278,000 円	平成30年度	令和元年度	年度
		1,312,000円	966,000円	円

事業の名称	「木もれびの森」案内看板及びマップ製作事業
-------	-----------------------

次のA～Dの19項目及びE～Iの5項目について、ご記入ください。

A：協働の基本原則・・・		はい				いいえ
協働の基本原則に基づいて行動することができましたか？ (a=肯定(はい)、b=どちらかと言えば肯定、c=どちらかと言えば否定、d=否定(いいえ))		はい				いいえ
1	相互理解の原則：互いの立場の違いや特性を認め合い、事業に取り組むことができましたか。	a	b	c	d	
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
2	目的共有の原則：協働することの意義を明確にし、互いがその目的を共有して事業に取り組むことができましたか。	a	b	c	d	
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
3	役割合意と協力の原則：互いの役割分担について理解し、対等な協力関係で効果的に事業に取り組むことができましたか。	a	b	c	d	
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
4	自立の原則：互いに依存することなく、お互いの役割を自覚して事業に取り組むことができましたか。	a	b	c	d	
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
5	透明性の確保の原則：取組の状況をホームページやニュースレター等で広く市民に対して発信することができましたか。	a	b	c	d	
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
自由意見	(以上の項目について、ご回答の理由などの補足事項をお書きください。) 団体、大学、市で意思疎通をできるように議論を重ねることで、お互いの立場を尊重しながら協議し、事業を遂行することができた。 大学生の技術を活かすことにより、視覚的にも楽しめる地図をデザインすることができた。	自己評価				
		A				
B：取組に当たっての関係性のふりかえり・・・		はい				いいえ
お互いの関係性についてお尋ねします！ (a=肯定(はい)、b=どちらかと言えば肯定、c=どちらかと言えば否定、d=否定(いいえ))		はい				いいえ
6	定期的あるいは必要に応じて、コミュニケーションを図る機会を設けることができましたか。(報告・連絡・相談の機会)	a	b	c	d	
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
7	事業の取組に当たって、前向きに意見を述べ合うことができましたか。	a	b	c	d	
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
8	負担感を持つことなく、協働することができたか。	a	b	c	d	
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
9	協働して取り組んだことによって、信頼関係を深めることができましたか。	a	b	c	d	
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
自由意見	(以上の項目について、ご回答の理由などの補足事項をお書きください。) 大学生は大学での授業及び課題、就職活動等により作業時間が限られていることから、月1回～2回の定期打合せにより団体と市で現地調査及び内容の検討を進めることで、大学生への負担が軽減されるよう取り組むことができた。	自己評価				
		A				
C：事業のふりかえり・・・事業の妥当性や成果についてお尋ねします！		はい				いいえ
(a=肯定(はい)、b=どちらかと言えば肯定、c=どちらかと言えば否定、d=否定(いいえ))		はい				いいえ
10	取り組んだ事業は、市民ニーズや社会的要請にマッチしたものだったか。(事業の必要性)	a	b	c	d	
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
11	設定した目標(目的)を達成することができたか。(目標達成度)	a	b	c	d	
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
12	事業に要した経費は適切なものだったか。(費用対効果)	a	b	c	d	
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
13	取り組んだ事業は、市民から一定の評価が得られたか。(市民満足度)	a	b	c	d	
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
14	さらなる発展が期待できる事業だと思いますか。(将来性・発展性)	a	b	c	d	
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
自由意見	(以上の項目について、ご回答の理由などの補足事項をお書きください。) 看板設置後、団体の保全活動時に利用者が看板の前に立ち止まって看板を見ている様子も見られ、良い評価を得ることができた。 また、現在地の記載及び番号を振ることで、迷わず利用できるとともに地域のオリエンテーリング等のイベントに活用することができるようにした。	自己評価				
		A				

D: 協働のふりかえり・・・協働することの必要性や効果についてお尋ねします! (a=肯定(はい)、b=どちらかと言えば肯定、c=どちらかと言えば否定、d=否定(いいえ))		はい			いいえ
15	課題解決に当たり、協働して取り組むことがふさわしい事業だったと思いますか。 (協働の必要性)	a	b	c	d
16	事業の妥当性や協働の必要性を勘案し、役割分担は適切なものだったと思いますか。 (役割分担の妥当性)	a	b	c	d
17	協働したことによって、相乗効果を上げることができたと思いますか。 (相乗効果)	a	b	c	d
18	協働したことによって、地域社会にインパクトを与えることができたと思いますか。 (他団体や地域社会など外部への波及効果)	a	b	c	d
19	他団体との新たな連携、新たな担い手(人材)の創出など、市民力や自治力の向上につなげることができたと思いますか。 (市民力・自治力の向上)	a	b	c	d
自由意見	(以上の項目について、ご回答の理由などの補足事項をお書きください。 保全活動を目的とした団体であることから、財源及びマップデザインにおける技術的な支援をするため、協働が必要不可欠であった。また、団体、大学及び市の協働で事業を進めることにより、市民ニーズに近い看板及びマップを作成し、設置する事が出来た。	自己評価			
A					
E: 20 協働のポイント-1 こんなところが良かった!と思ったことをお書きください。					
実施団体記載欄		事業担当課記載欄			
資金、マップや看板のデザイン、業者との折衝など、団体では確実に遂行できない部分を行政にゆだねることで実現できた。		日頃から森の保全活動に取り組む団体と検討を重ねたことで、より効果的な看板配置及び掲載情報を決定することができた。 また、マップデザインについて、大学生との協働により取り組むことができたことで、利用者にとって見やすいマップを製作することができた。			
F: 21 協働のポイント-2 ここは改善したい!と思ったことをお書きください。					
実施団体記載欄		事業担当課記載欄			
大学とはマップデザインに関する技術及び知識の差があったため、意思疎通するために協議の重要性を実感した。		デザインの編集にかかる大学生の作業量について編集ソフトの特性等への理解が団体及び市で不足していたため、予定していたスケジュール通り進めることができなかったことから、関係者内で予め作製スケジュールの共有に努める必要があった。			
G: 22 協働のポイント-3 これから協働にチャレンジしようとする人へのメッセージ!					
実施団体記載欄		事業担当課記載欄			
良いと信じたことは、規模の大小にかかわらず提案していくこと。		団体が持つ専門性及び市民目線を存分に活かし、行政だけでは完成することができない事業やサービスを創出していただきたい。			
H: 23 その他(それぞれに期待すること、自由意見)					
実施団体記載欄		事業担当課記載欄			
高齢林となり、ますます衰退化が進行していく森の保全活動を継続していくためには、いかにして担い手を確保していくかが肝要であり、今回の事業はそのための有効な手段であったと考えている。		団体及び大学の皆様のご尽力により、市民のニーズに応える素晴らしい看板及びマップが完成した。 今後、緑地保全の必要性を市民に発信するにあたり、今回の経験を活かしていきたい。			

I : 24 取組の様子 (写真とコメント) ※写真はできるだけ入れるようにしてください!

写真添付欄



コメント記載欄

支柱埋め込み作業

写真添付欄



コメント記載欄

順路案内板設置完了

写真添付欄

**木もれびの森とは**  
木もれびの森は、新緑期で近郊3haという広さで構成された森林の森です。そして、人が木もれびを癒し入られたり、遊んだりして楽しむ場所を創出し、その中で二次的な癒しです。1973年に「新緑期近郊緑地特別安全地区」に指定され、新緑期には近郊緑地特別安全地区として指定されています。そのため、森林の安全管理を行うとともに、人が気軽に訪れようとするよう開設しています。

**木もれびの森の移りかわり**  
昭和30年代 木もれびの森  
昭和40年代 木もれびの森  
昭和50年代 木もれびの森  
昭和60年代 木もれびの森  
昭和70年代 木もれびの森  
昭和80年代 木もれびの森  
昭和90年代 木もれびの森  
平成00年代 木もれびの森  
平成10年代 木もれびの森  
平成20年代 木もれびの森  
平成30年代 木もれびの森  
令和00年代 木もれびの森

**木もれびの森の森**  
木もれびの森の土地所有状況は、多くの民間企業が買収されていますが、新緑期には市民参加型の森づくり活動が行われています。市民参加型の森づくり活動は、市民参加型の森づくり活動と連携して行われています。市民参加型の森づくり活動は、市民参加型の森づくり活動と連携して行われています。

**よく見られる森の植物・実**  
キノコ類 シュンラン キンラン イチヤウリ  
フタリシズク オウゴンタマゴ タンポポク フタリシズク  
サイハイラン アマノ エビネ ニリンソウ  
クワシキイダゴ ウラジマツク ミヤマハルコウリ ショウニヒトエ  
ヤマユリ ツリガネシシト キンギノミドリ ヲシロシヤウマ  
オニヤカラ ナタムクロ オカトラノオ アキノタムラソウ  
ミズヒキ サフラン ヤマホトトギス スズビトヒギ  
マツタケ リンゴ ノゾク フサカサフ  
トリモチ アカハシキク キチヤウリツク マツタケ

**森の代表する樹木 (6)**  
ウグイスガク マユミ ムラサキキキ  
森の珍しい樹木  
① ミズメ ② ケンボウシ ③ ウリノキ  
森のおかしな樹木  
④ ヨロシク ⑤ モジ、モシ ⑥ オ・K ⑦ バイバシ ⑧

**アクセス**  
西武池袋線から相模原中央緑地 距離: 約1.5km・徒歩約20分  
大野台入口バス停から相模原中央緑地 距離: 約1.4km・徒歩約15分  
大野小学校入口バス停から相模原中央緑地 距離: 約1.5km・徒歩約20分

コメント記載欄



写真

木もれびの森マップ